

| 記号                                    | 名称   | 説明  |
|---------------------------------------|--|---|
| $I_s$                                 | 構造耐震指標   | 建物の耐震性能を表した指標<br>各階・各方向（X・Y）ごとに建物の強度や粘り強さ・形状・経年変化などを考慮して算出する。<br>数値が大きいほど耐震性能は高い。 |
| $Q_u$                                 | 保有水平耐力   | 建物の耐震性能を表した数値<br>各階・各方向（X・Y）ごとに建物の強度や粘り強さ・形状・経年変化などを考慮して算出する。<br>数値が大きいほど耐震性能は高い。 |
| $I_{s0}$                              | 構造耐震判定指標   | 想定した地震に対して必要とされる建物の耐震性を表す指標（基準値）  |
| $a \cdot Q_{un}$                      | 必要保有水平耐力の補正係数（ $a$ ）<br>必要保有水平耐力（ $Q_{un}$ ）                   | 想定した地震に対して必要とされる建物の耐震性を表す数値（基準値）  |
| $GI_s$                                | 構造耐震指標   | $Q_u/a \cdot Q_{un}$ に、建物に要求される機能に応じた重要度の考えを加えて、建物の耐震性能を表した指標<br>数値が大きいほど耐震性能は高い。 |
| $q$                                   | 保有水平耐力に係わる指標   |   |
| $C_T \cdot S_D$<br>$C_{TU} \cdot S_D$ | 累積強度指標（ $C_T$ ）<br>終局限界における累積強度指標（ $C_{TU}$ ）<br>形状指標（ $S_D$ ） | 建物の強度を表した指標<br>各階・各方向（X・Y）ごとに算出し、粘り強さだけでなく一定の強度があることを確認する。                        |
| $Z$                                   | 地域指標   | 地震活動度や地震動強さを考慮するための補正係数<br>一般的に建築基準法の地域係数 $Z$ （東京都は1.0）を用いる。                      |
| $R_t$                                 | 振動特性係数   | 建物の固有周期及び地盤の種別に応じた建物の振動特性により地震力の値を補正させる係数   |
| $G$                                   | 地盤指標   | 地盤・地形・地盤と建物の相互作用を考慮するための補正係数  |
| $U$                                   | 用途指標   | 建物の用途を考慮するための補正係数   |